

2022 年 4 月からの新課程(数学)について

2022年4月から新課程が学年進行（高校1年生から順次）で導入され、数学の各科目で学習する内容も変化することとなりました。本紙面において、簡単に新課程（数学）についてご説明するとともに、弊社商品の取り扱いに関する注意点を明記しますので、ご参考としていただければ幸いです。

現行課程		新課程	
数学Ⅰ	1. 数と式 2. 図形と計量 3. 二次関数 4. データの分析	数学Ⅰ	1. 数と式 2. 図形と計量 3. 二次関数 4. データの分析
数学A	1. 場合の数と確率 2. 整数の性質(新課程では「数学A」の“数学と人間の活動”などで扱われる) 3. 図形の性質	数学A	1. 図形の性質 2. 場合の数と確率 3. 数学と人間の活動（「数学活用」から移行）
数学Ⅱ	1. いろいろな式 2. 図形と方程式 3. 指数関数・対数関数 4. 三角関数 5. 微分・積分の考え	数学Ⅱ	1. いろいろな式 2. 図形と方程式 3. 指数関数・対数関数 4. 三角関数 5. 微分・積分の考え
数学B	1. 確率分布と統計的な推測 2. 数列 3. ベクトル（新課程では「数学C」）	数学B	1. 数列 2. 統計的な推測 3. 数学と社会生活（「数学活用」から移行）
数学Ⅲ	1. 平面上の曲線と複素数平面（新課程では「数学C」） 2. 極限 3. 微分法 4. 積分法	数学Ⅲ	1. 極限 2. 微分法 3. 積分法
数学活用	1. 数学と人間の活動（新課程では「数学A」） 2. 社会生活における数理的な考察 ・社会生活と数学（新課程では「数学B」） ・数学的な表現の工夫（新課程では「数学C」） ・データの分析	数学C	1. ベクトル（「数学B」から移行） 2. 平面上の曲線と複素数平面（「数学Ⅲ」から移行） 3. 数学的な表現の工夫（「数学活用」から移行）

上記のように新課程では「数学活用」が廃止となり、「数学C」を設けました。現行課程の前の旧課程（2003年～）に近い構成です。注意すべき点としては、旧課程では「数学Ⅲ」「数学C」は理系志望者が選択する科目でしたが、今回の新課程では「数学C」に“ベクトル”が入ったことにより、文系志望者も「数学C」を学習する必要があるそうです。また「数学B」で“統計的な推測”がほぼ必須となったため、新課程で学習する人は旧課程の本だけでは対応できませんので注意が必要です。

なお、新課程への移行は学年進行で実施されますので、2022年は高校1年生、2023年には高校1・2年生、2024年は全学年が新課程へ完全移行することになります。

●高校の授業について

新課程の共通テストが「数学Ⅰ、数学A」、「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ、数学B、数学C」の3科目と発表され

ました。「数学B」及び「数学C」については、“数列”“統計的な推測”“ベクトル”及び“平面上の曲線と複素数平面”の4項目のうち3項目の問題を選択解答することとなります。したがって、文系志望者には「数学C」の“ベクトル”を履修させる高校が多いと思われます。このことから「数学C」は高校2年生から積極的に扱うほうが自然な流れとなりそうです。

●大学入試の変化

新課程で「数学C」が復活したことにより、共通テストにも登場することとなりました。文系志望者の多くは「数学B」の2項目と「数学C」の“ベクトル”を選択するものと推測されます。各大学の2次試験は、大学ごとに
出題範囲が決められることとなりますが、東京大学及び京都大学では文系の出題範囲に「数学C（ベクトル）」が予告されています。

弊社の新課程対応について

高校生が数学の学習をする状況を考えると、目的によって以下の二つに分類されます。

- (1) 教科書と並行して学習する場合で、教科書よりやや難しめの問題で、得た知識を定着させることを目的とする。
- (2) 大学受験のための学習で、教科書学習だけでは実際の入試は解くことができない現実がありますので、入試レベルの問題で応用力や受験テクニックを身につけることを目的とする。

(1) の学習では、新課程に対応した教材が必要となります。弊社の商品の中では以下が該当します。

●プレ・1対1シリーズ

本シリーズは、教科書レベルから大学入試基礎レベルの学習が中心ですので、「数学Ⅰ」「数学A」は高校1年生、「数学Ⅱ」「数学B」は高校2年生が主要読者です。新課程に対応した【改訂版】を発行しております。

【全4点が新課程に対応！】

数学Ⅰ 改訂版 主な内容 数と式 / 2次関数 / 図形と計量 / データの分析  新課程対応	数学A 改訂版 主な内容 場合の数 / 確率 / 整数 / 図形の性質  新課程対応
数学Ⅱ 改訂版 主な内容 式と証明 / 複素数と方程式 図形と方程式 / 三角関数 / 指数関数・対数関数 / 微分法とその応用  新課程対応	数学B+ベクトル 改訂版 主な内容 数列 / 統計的な推測 / 平面のベクトル / 空間のベクトル  新課程対応

※新課程では「数学C」に“ベクトル”が入り、共通テストの範囲に含まれますので、改訂版では「数学B+ベクトル」として発行しました。

●1対1シリーズ

本シリーズは入試標準レベルまでを学習サポートする商品であり、教科書学習を終えた高校生が主要読者です。約7割が受験生ですが、残り3割は1・2年生が購入しておりますので、**新課程に対応した【三訂版】を順次発行**します。なお、本シリーズの購入者は受験生が多いので、**【三訂版】発行後も現行版の【新訂版】を継続して併売**をお願いします。

【新課程対応】

「数学Ⅰ【三訂版】」「数学A【三訂版】」

「数学Ⅱ【三訂版】」「数学B【三訂版】」

⇒以上の4点は発売中！

「数学C【三訂版】」⇒2023年秋に発売予定

「数学Ⅲ【三訂版】」⇒2024年春に発売予定

※新課程では「数学C」に“ベクトル”が入り、高校2年生で履修する学校も考えられますので、「数学C【三訂版】」を2023年秋に発行を予定しています。

(2) の学習では、志望大学、志望学部の出題範囲に合わせた学習が必要です。いくつかの大学で個別学力検査の出題教科・科目が予告されていますが、基本としては文系・理系によって出題範囲は変わります。文系は「数学Ⅰ・Ⅱ・A・B・C(ベクトル)」、理系は「数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B・C(ベクトル)と(平面上の曲線と複素数平面)」が課されることがとなります。今回の新課程で高校数学から消えた項目は「整数の性質」ですが、その内容は「数学Ⅰ」の“数と式”や「数学A」“数学と人間の活動”に含まれることになっていますので、大学入試では今後も“整数”は出題されると考えられます。また、新たに追加された科目「数学C」の内容も、現行課程からの移行ですので、文系・理系の出題範囲を考えた場合、現行課程と大きな変化はありません。

【その他商品の新課程対応について】

その他の当社商品は、ほとんどが受験生対象の商品です。また、「数学Ⅰ」「数学A」といった科目別で発行している商品もほとんどありませんので、大学受験の範囲外となるような商品はありません。継続してご購読いただけます。なお、共通テスト関連本や一部の商品については、新課程に完全移行後の2025年1月～3月に実施される入試までに、改訂版や新刊などの発行計画は以下の通りです。

大学への数学・5月増刊

「数学Ⅲ・Cスタンダード演習」

⇒部分改訂して2024年4月発行予定

「共通テスト必勝マニュアル /

数学ⅡBC【2025年受験用】

⇒部分改訂して2024年8月頃発売予定

「入試のツボを押さえる重点学習 / I A II BC(改訂版)」

「真・解法への道！ / 数学Ⅰ A II BC(改訂版)」

⇒上記2点は改訂版の発行を検討中

東京出版

<https://www.tokyo-s.jp/>

〒150-0012 東京都渋谷区広尾3-12-7 TEL.03-3407-3387